

# 第2編

## 総合的な学習の時間 スタートガイド



# 第1章 全体計画の作成 【解説P44～61】

## 第1節 全体計画の基本的な考え方

### 1. 全体計画の概要

全体計画とは、指導計画のうち、学校として、この時間の教育活動の基本的な在り方を、概括的・構造的に示すものである。

各学校において全体計画を作成することの意味は、学習指導要領に示される「総合的な学習の時間」の目標を、各学校の日々の実践として具体化するところにある。全体計画は、簡潔な表現で、見やすく、日々の実践において活用しやすいものを作成することが望まれる。

全体計画の作成に当たり、各学校は以下の7つの要素について考える必要がある。

- ①この時間を通してその実現を目指す「目標」
- ②目標を実際の学習活動へと実践化するために、より具体的・分析的に示した「育てようとする資質や能力及び態度」
- ③「目標」の実現にふさわしいと各学校が判断した学習課題等から成る「内容」。この「内容」を定めるに当たっては、学習対象や学習事項等によって、学習課題を具体的・分析的に示すことが考えられる。
- ④「内容」とのかかわりにおいて実際に生徒が行う「学習活動」。これは、実際の指導計画においては、生徒にとって意味のある問題の解決や探究活動のまとまりとしての「単元」、さらにそれらを配列し、組織した「年間指導計画」として示される。
- ⑤「学習活動」を適切に実施する際に必要とされる「指導方法」
- ⑥「学習の評価」。これには、生徒の学習状況の評価、教師の学習指導の評価、①～⑤の適切さを吟味する指導計画の評価が含まれる。
- ⑦①～⑥の計画、実施を適切に推進するための「指導体制」

①～③を「必須の要件として記すもの」として、④～⑦は「基本的な内容や方針等を概括的に示すもの」として位置付けることが考えられる。そのほか、全体計画には、各学校が必要と考える事項を加えることができる。

以上を書き表した全体計画の様式の例が図1である。必要な要素が含まれていれば、その様式は、各学校で自由に定めることができる。

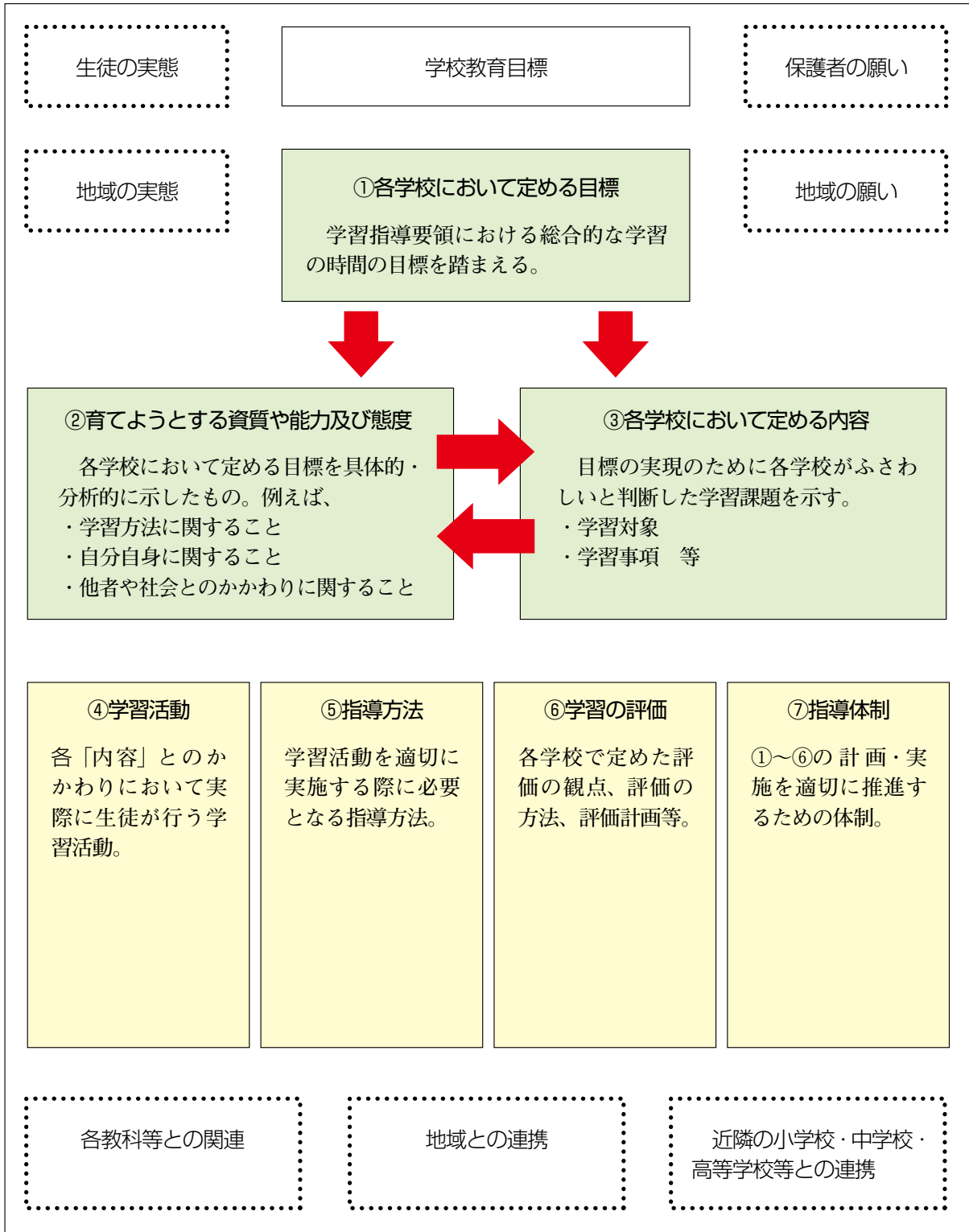


図1：総合的な学習の時間、全体計画の様式例

## 2. 全体計画の中心となる3要素

「各学校において定める目標」と、「育てようとする資質や能力及び態度」、「各学校において定める内容」は、全体計画における必須の要件となる3要素である。

〈全体計画の中心となる3要素〉

- ① 各学校において定める目標
- ② 育てようとする資質や能力及び態度
- ③ 各学校において定める内容

総合的な学習の時間においては、横断的・総合的な学習や探究的な学習としての単元を実現することが欠かせない。そのためには、目標と、目標を具体的・分析的に示した育てようとする資質や能力及び態度、目標の実現のためにふさわしいと判断した内容としての学習課題等を明らかにする必要がある。

これらの関係は、図2のように、表わすことができる。

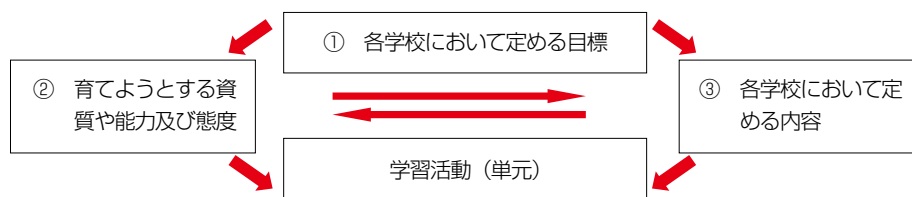


図2：全体計画の3要素と学習活動（単元）の関係

「各学校において定める目標」は、学習指導要領に示された「第1の目標」を踏まえて作成するものである。学校において定める目標を具体的・分析的に示したものが「育てようとする資質や能力及び態度」であり、目標の実現のために各学校がふさわしいと判断した学習課題等が「各学校において定める内容」である。両者は、生徒の実態やこれまでの実践の積み重ねなどに即して、相互に確認しながら作成する。学習活動（単元）は、資質・能力・態度及び内容の2つを踏まえ、その実現を目指して構成することとなる。

## 3. 3要素を明確にすることの価値

総合的な学習の時間では、全体計画を作成するにあたって2. に示した3つの要素がとりわけ重要である。それは、以下の理由による。

一つ目は、総合的な学習の時間では、実社会や実生活において生きて働く資質や能力及び態度の育成が期待されているからである。実際の生活にある問題を取り上げることで、生徒は課題を解決しようと真剣に取り組み、自らの能力を存分に発揮する。こうした一連の問題解決の中で育成される能力は、例えば課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力など、実社会において求められる能力である。目標を具体的・分析的に示した「育てようとする資質や能力及び態度」を明らかにすることは、実社会で活用することのできる先に述べたキー・コンピテンシーのような国際標準の学力を育成することにつながる。

二つ目は、総合的な学習の時間では、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代社会の課題を学ぶことが期待されているからである。これらの現代社会の課題は、近年になって深刻さを増してきた課題であり、これからの社会を担う生徒にとっては避けて通ることのできない生活上の諸課題である。こうした正解が一つに定まらない現代社会の課題などを、真剣に解決に向けて取り組むことこそが、これからの時代を生きる生徒に求められている。「内容」を明らかにすることは、解決しえない

現代社会の課題などに向き合い、学び続ける生徒の育成につながる。

三つ目は、周囲の環境等との関係の中で、将来に向けていかに生きていくかを考えることが期待されているからである。問題の解決や探究活動では、生徒が自ら設定した学習課題や学習対象などを、自分と切り離して見たり扱ったりするのではなく、自分や自分の生活とのかかわりの中でとらえ、考えることになる。また、人や社会、自然を、別々の存在として認識するのではなく、それぞれがつながり合い関係し合うものとしてとらえ、認識しようとする。総合的な学習の時間では、それぞれの生徒が具体的で関係的な認識を、自ら構築していくことを期待している。

こうして総合的な学習の時間では、目標に示す「自己の生き方を考えることができる」生徒の姿が具現されていくのである。

そのためにも、日常生活や社会とのかかわりを重視することが大切である。日常生活や社会とのかかわりを重視することは、自分とのつながりが明らかになり生徒の関心も高まりやすい。また、直接体験なども行いやすく、身体全体を使って、本気になって取り組む生徒の姿が生み出される。また、生徒にとっての学ぶ意義や目的を明確にすることが可能で、そのことが生徒の意欲的な学習の姿を生み出すことにもつながる。

このように、各学校においては、総合的な学習の時間の必要性や重要性を再確認し、目標及び内容を定めることが求められる。

## 第2節 全体計画作成の進め方

### 1. 各学校において定める目標

各学校における目標は、次のような点を基本に考えていくことができる。

#### (1) 目標の設定

各学校が目標を設定する際には、この時間の教育活動が創意工夫に満ちた、豊かなものになるよう第1の目標を構成する以下の5つの要素を含むよう配慮し、独自に目標を定める必要がある。

- ①横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと
- ②自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること
- ③学び方やものの考え方を身に付けること
- ④問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること
- ⑤自己の生き方を考えることができるようにすること

#### (2) 目標の書き表し方の例

目標を書き表すには、5つの要素を含んでいればよく、例えば、次のような方法が考えられる。

- 「具体化」・・・学校の実態に応じて具体的に書き込む
- 「重点化」・・・5つの要素を示した上で、要素のいずれかを強調する
- 「付加」・・・別の要素を加える

○「具体化」の例

地域の素材を扱った学習を想定している場合、「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと」は、次のように「具体化」できる。

- ・自分の生活と地域の人々や事象とのかかわりについて探究することを通して
- ・地域の自然や社会と人々についての探究的な学習を通して など

○「重点化」の例

「学び方やものの考え方を身に付けること」を「重点化」すると、次のようになる。

- ・仮説を立て、調査を通して得られた情報を分析し、論理的に結論を導く考え方を身に付け
- ・課題解決を目指して事象を比較したり、因果関係を推測したりして考え など

○「付加」の例

各学校において大切にしたいことで、この時間の趣旨や教育課程上の位置付けに照らして  
妥当な要素を「付加」することができる。例えば、次のようになる。

- ・地域に対する誇りと愛着を高め
- ・持続可能な社会づくりへの意識を持ち
- ・自他の思いや願いを尊重し など

目標を書き表す際には、例えば、「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること」と「問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること」をひとつの文にまとめ、「そこにある問題を主体的に見出し、仲間と協力して問題を解決する」等、複数の要素を組み合わせ、複合的に書き表すことができる。

なお、各学校において定める「目標」については、一文で表しても複数の文を列挙する形で表してもかまわない。適切な分量の中で、各学校が大切にしたいことを誰にでも分かりやすい表現で盛り込むように工夫することが重要である。

## 2. 育てようとする資質や能力及び態度

育てようとする資質や能力及び態度とは、各学校において定める目標を、実際の学習活動へと実践化するために、より具体的・分析的に示したものである。したがって、育てようとする資質や能力及び態度には、各学校の目標が実現された際に現れる望ましい生徒の成長の姿が示されることになる。各学校において定める目標と、育てようとする資質や能力及び態度の2つにより、この時間の教育活動を通して「どんな生徒を育てたいか」を明示することになる。

育てようとする資質や能力及び態度については、例えば、学習方法に関すること、自分自身に関すること、他者や社会とのかかわりに関すること等の視点に配慮する必要がある。

①学習方法に関すること

生徒が横断的・総合的な学習や探究的な学習を主体的、創造的に進めていくために必要な資質や能力及び態度に関する視点

②自分自身に関すること

生徒自身の生活や行為の在り方、あるいは自己理解や自己省察に必要な資質や能力及び態度に関する視点

③他者や社会とのかかわりに関すること

他者との協同や社会とのかかわりに必要な資質や能力及び態度に関する視点

3つの視点は、これまで全国で取り組まれてきた実践事例を整理するなかで見出されてきたものである。また、この見出された視点は、OECDが示した主要能力（キー・コンピテンシー）に符合している。主要能力とは、先に述べたとおり OECD が、これからの「知識基盤社会」の時代を担う生徒に必要な能力として示したものである。

キー・コンピテンシーとは、具体的には、次の三つである。

- ①「社会、文化的、技術的ツールを、相互作用的に活用する力」
- ②「自律的に行動する能力」
- ③「多様な社会グループにおける人間関係形成能力」

3つの視点のうち、学習方法に関することが主要能力の①、自分自身に関することが主要能力の②、他者や社会とのかかわりに関することが主要能力の③におよそ対応している。

各学校では、この3つの視点を踏まえ、「育てようとする資質や能力及び態度」を設定することが考えられる。その際に、例えば解説に示した育てようとする資質や能力及び態度の具体例（図3）を参考にすることができる。

育てようとする資質や能力及び態度の設定に際しては、全教職員がそれぞれの実践経験を生かし、記述内容等について生徒の実態を踏まえるとともに、項目数や記述量が日常的使用にふさわしい分量とすることに配慮することが大切である。

視点		小学校	中学校	高等学校
学習方法に関すること	課題設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題状況の中から課題を発見し、設定する</li> <li>・解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する</li> <li>・仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複雑な問題状況を踏まえて適切な課題を設定する</li> <li>・仮説を立て、それに適合した検証方法を明示した計画を立案する</li> </ul>
	収集分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な情報を収集し分析する</li> <li>・手段を選択し、情報を収集する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて手段を選択し、情報を収集する</li> <li>・必要な情報を収集し、多角的に分析する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて臨機応変に適切な手段を選択し、情報を収集する</li> <li>・必要な情報を広い範囲から迅速かつ効果的に収集し、多角的・实际的に分析する</li> </ul>
	思考判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題状況における事実や関係を把握し理解する</li> <li>・多様な情報の中にある特徴を見付ける</li> <li>・課題解決を目指して事象を比較したり、関連付けたりして考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えをもつ</li> <li>・視点を定めて多様な情報を分析する</li> <li>・課題解決を目指して事象を比較したり、因果関係を推測したりして考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複雑な問題状況における事実や関係を構造的に把握し、自分の考えを形成する</li> <li>・視点を定めて多様な情報から帰納的・演繹的に考察する</li> <li>・事象や事象間の関係を比較したり、複数の因果関係を推理したりして考える</li> </ul>
	表現省察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現する</li> <li>・学習の仕方や進め方を振り、学習や生活に生かそうとするなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や目的、意図に応じて、論理的に表現する</li> <li>・学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとするなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や目的、意図に応じて、手際よく論理的に表現する</li> <li>・学習の仕方や進め方を内省し、現在及び将来の学習や生活に生かそうとするなど</li> </ul>
自分自身に関すること	意思決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの行為について意思決定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの行為について責任をもって意思決定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの行為について当事者意識と責任感をもって意思決定する</li> </ul>
	計画実行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を設定し、課題の解決に向けて行動する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に行動する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を明確にし、課題の解決に向けて計画手に確実に行動する</li> </ul>
	自己理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの生活の在り方を見直し、実践する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの生活の在り方を見直し、日常的に実践する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの生活の在り方を見直し、改善に向けて日常的に実践する</li> </ul>
	将来展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の将来を考え、夢や希望をもつなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の将来を考え、夢や希望をもつなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の将来について具体的に考え、夢や希望をもつなど</li> </ul>
他者や社会とのかかわりに関すること	他者理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる意見や他者の考えを受け入れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重し理解しようとする</li> </ul>
	協同	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と協同して課題を解決する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの特徴を生かし、協同して課題を解決する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いを認め特徴を生かしあい、協同して課題を解決する</li> </ul>
	共生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの環境とのかかわりを考えて生活する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境の保全を考えて行動する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境の保全について主体的、協同的に行動する</li> </ul>
	社会参画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の解決に向けて地域の活動に参加するなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の解決に向けて社会活動に参画するなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の解決に向けて多様な社会活動に当事者意識をもって参画するなど</li> </ul>

図3：育てようとする資質や能力及び態度の例



### 3. 各学校において定める内容

#### (1) 内容設定の要件と学習課題

総合的な学習の時間においては、内容として、目標の実現のためにふさわしいと各学校が判断した学習課題を定める必要がある。この学習課題とは、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題、生徒の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題、職業や自己の将来にかかわる課題などのことであり、内容が兼ね備えるべき要件としては、次の3つがある。

- ①横断的、総合的な学習としての性格をもつこと
- ②探究的に学習することがふさわしいこと
- ③学習や気づきが自己の生き方を考えることに結び付いていくこと

内容を定めるに当たっては、生徒が探究的にかかわりを深めていくひと・もの・ことなどの学習対象や、学習対象とのかかわりを通して学ぶことが期待される学習事項等によって、学習課題を具体的・分析的に示すことが考えられる。各学校においては、学習対象を明らかにするとともに、必要に応じて学習事項等を定めることが考えられる。

#### (2) 例示された学習課題の特質

学習課題とは、3つの要件を満たす教育的に価値ある課題を、各学校の判断で内容として設定したものであり、①国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題、②生徒の興味・関心に基づく課題、③地域や学校の特色に応じた課題、④職業や自己の将来にかかわる課題の4つが例示されている。

国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題とは、ここ数十年の間に社会の変化に伴って新たに生じた、またはその深刻さを増してきた、あるいは切実に意識されるようになってきた、現代社会における生活上の諸課題のことである。そのいずれもが、持続可能な社会の実現にかかわる課題であり、現代社会に生きるすべての人が、これらの課題を自分のこととして受け止め、日々の生活の中で自己の生き方とのかかわりで考え続け、よりよい解決を目指して行動することが望まれる。

生徒の興味・関心に基づく課題とは、生徒がその発達段階に応じて興味・関心を抱く課題のことである。例えば、ものづくりなどを行い楽しく豊かな生活を送ろうとすること、生命の神秘や不思議さを明らかにしたいと思うこと、などが考えられる。この課題は、生徒の課題への取組の姿勢を示唆するとともに、そのいずれもが、よりよい自己実現と深くかかわっている。生徒には、これらの課題を実社会や実生活とのかかわりで考え、課題の解決を目指して自発的に行動することが望まれる。

地域や学校の特色に応じた課題とは、地域の伝統、文化、行事、生活習慣、経済、産業などにかかわる、各地域や各学校に固有な生活上の諸課題のことである。そのいずれもが、よりよい郷土の創造にかかわる課題である。地域社会に生きるすべての人が、その地域ならではのよさに気づき、問題点を自分のこととして受け止めるとともに、日々の生活の中で自己の生き方とのかかわりで考え続け、よりよい解決を目指して行動することが望まれる。

職業や自己の将来にかかわる課題は、義務教育の最終段階にある中学生にとって、切実かつ現実的な課題である。この課題について、具体的な体験活動や調査活動、仲間との真剣な話し合いを通して学び合う機会をもつことは、生徒が自己の生き方を具体的、実地的なものとして考えることにつながる。

また、このことは、自己の将来を力強く着実に切り開いていこうとする資質や能力、態度の育成において、極めて重要である。

### (3) 学習対象・学習事項の設定

学習対象とは、生徒が探究的にかかわりを深めるひと・もの・ことを示したものであり、例示された4つの課題をさらに具体化したものである。また、学習事項とは、個々の学習対象とのかかわりを通して、生徒に「どんなことを学んでほしいか」について、さらに踏み込んで分析的に示したものである。例えば、以下の表（図4）を参考に各学校で内容を設定することが考えられる。

学習課題		学習対象	学習事項
① 横断的・総合的な課題	国際	地域に暮らす外国人とその人達が大切にしている文化や価値観	・日本の伝統や文化の特徴と日本人としての自覚 ・世界の国々の伝統や文化の特徴 ・異なる文化との共生を目指す活動や取組 など
	情報	情報化の進展とそれに伴う日常生活や消費行動の変化	・多様な情報手段の機能と特徴 ・情報環境の変化と自分たちの生活とのかかわり ・目的に応じた主体的で責任ある情報の選択と発信 など
	環境	地域の自然環境とそこに起きている環境問題	・地域の自然の存在とそのよさ ・環境問題と自分たちの生活とのかかわり ・環境の保全と持続可能な社会の創造のための取組 など
	資源エネルギー	自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題	・社会を支える資源・エネルギー活用とその生産の現状 ・資源・エネルギー問題と社会生活とのかかわり ・省資源・省エネルギーと持続可能な社会の創造のための取組 など
	福祉	地域の高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々	・地域の高齢者とその生活 ・現代社会における福祉の現状と問題 ・福祉問題の解決やよりよい福祉を創造するための取組 など
	健康	毎日の健康な生活とストレスのある社会	・社会の変化と健康の保持・増進をめぐる問題 ・自分たちの生活習慣と健康とのかかわり ・より健康で安全な生活を創造するための取組 など
	食	食をめぐる問題と地域の農業や生産者	・地域の農業や生産者の現状と日本及び世界の食糧問題 ・食の安全や食料確保と社会生活とのかかわり ・食をめぐる問題の解決とよりよい食生活の創造を目指した取組 など
	科学技術	科学技術の進歩と社会生活の変化	・科学技術の進歩と生活様式や価値観の変化 ・科学技術の進歩と社会生活とのかかわり ・科学技術をよりよく生活に生かし豊かな生活を創造しようとする取組 など
② 生徒の興味・関心に基づく課題	ものづくり	ものづくりの面白さや工夫と生活の発展	・ものづくりの面白さや工夫とそれを生かした生活の豊かさ ・ものづくりによる豊かな社会の創造と生活の発展 ・快適で自分らしい生活環境を生み出す取組 など

	生命	生命現象の神秘、不思議、すばらしさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命現象の神秘や不思議、すばらしさ</li> <li>・かけがえのない存在としての自己理解と自尊心</li> <li>・自他の生命の尊重を理解し守る取組 など</li> </ul>
③ 地域や学校の特色に応じた課題	町づくり	町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々がつながり、支え合って暮らすことの意義と難しさ</li> <li>・町づくりや地域活性化に取り組んでいる人々や組織とその思い</li> <li>・地域の一員として、町づくりや地域活性化にかかわろうとする活動や取組 など</li> </ul>
	伝統文化	地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の伝統や文化のもつ特徴</li> <li>・地域の伝統や文化の継承に力を注ぐ人々や社会の仕組み</li> <li>・地域の一員として、伝統や文化をよりよく継承し発展させていこうとする取組 など</li> </ul>
	地域経済	商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の変化と地域の商店街が抱える問題</li> <li>・地域経済の活性化に向けて努力する人々とその思い</li> <li>・地域の一員として、地域社会の再生にかかわろうとする活動や取組 など</li> </ul>
	防災	防災のための安全な町づくりとその取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害の恐ろしさと防災意識の大切さ</li> <li>・地域や学校で防災に取り組む意義と安全な町づくり、学校づくり</li> <li>・地域や学校の一員として、災害に備えた安全な町づくり、学校づくりにかかわろうとする活動や取組 など</li> </ul>
④ 職業や自己の将来にかかわる課題	職業	職業の選択と社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業による自己実現と社会貢献</li> <li>・自分自身の夢や適性と職業の選択</li> <li>・自分自身の職業的将来展望を模索する取組 など</li> </ul>
	勤労	働くことの意味や働く人の夢や願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で働く人の存在とその夢や願い</li> <li>・地域社会を支える様々な職業や機関</li> <li>・経済的自立と働くことの意味 など</li> </ul>

図4：学習課題・学習対象・学習事項の例

### (1) 学校で定めた目標

A中学校では、学校教育目標、生徒の実態、地域の実態、保護者の願い、地域の願いを踏まえて、目標を次のように定めている。この目標は、学習指導要領の第1の目標と以下のように対応している。

自分と地域の「ひと・もの・こと」とのかかわりについて①、探究的な活動を通して、総合的に追究する方法を身に付け③、そこにある問題を主体的に見出し、仲間と協力して問題を解決する②④とともに、自己の在り方や生き方を見つけようとする⑤

\*①～⑤は、学習指導要領の第1の目標を構成する5つの要素

目標の記述については、上記のように一文で表す場合もあれば、次のように箇条書きで表すことも考えられる。

(例)○地域の様々な事象に関する体験活動を通して①、学び方やものの考え方を身に付けようとする③  
○問題の解決や探究活動において①、自ら課題を発見し②、仲間と協力して解決に取り組み④、自らの生活を見直そうとする⑤

\*①～⑤は、学習指導要領の第1の目標を構成する5つの要素

### (2) 育てようとする資質や能力及び態度

生徒の実態や小学校での学習経験を踏まえ、「学習方法に関すること」、「自分自身に関すること」、「他者や社会に関すること」の3つの視点に即して、育てようとする資質や能力及び態度を設定している。特に、課題設定の力、比較や因果関係などの思考力、コミュニケーションの力などを重視している。加えて、将来設計、計画実行、協同、社会参画などの力も育てたい力として位置付けている。なお、ここでは、学年ごとに分けず、3年間を見通した資質や能力及び態度を示している。

### (3) 学校で定めた内容

(1)で設定した目標を実現するために、学年別に主題を設定し、第1学年では地域の環境に関する課題、第2学年では職業や自己の将来を考える課題、第3学年では高齢化を中心に福祉に関する課題を内容として設定している。学習対象や学習事項の記述にあたっては、具体的な固有名称を書き加えていない。これにより、学年や学級の具体的な学習活動を独自に考えることができるようにしている。

### (4) 地域や生徒の実態及び各教科等との関連

目標を具体的・分析的に示した「育てようとする資質や能力及び態度」ならびに、目標の実現にふさわしい学習課題を内容として設定するに当たり、地域や生徒の実態を重視することを大切にしている。

また、校区内の小学校で行われている総合的な学習の時間の情報を収集するとともに、生徒がそこで身に付けてきた資質や能力及び態度をもとに全体計画を作成した。また、地域にある老人ホームや障害者施設、そこで働く人々の存在、また中学生の時期になると強く関心を示す働くことや職業などを学習対象や学習事項として設定している。

こうして明らかにした資質や能力及び態度と学習対象や学習事項などの内容を各教科等と関連させながら学習活動を行うよう全体計画を構想している。



### 第3節 全体計画の具体例

#### 事例① (A中学校全体計画)

##### 事例① A中学校 総合的な学習の時間 全体計画

